

コロナ禍における健康・スポーツ科学実習

Introductory Practice of Health and Sport Sciences in Corona Chaos

前田 正登 (神戸大学 人間発達環境学研究科 教授)

秋元 忍 (神戸大学 人間発達環境学研究科 准教授)

関 典子 (神戸大学 人間発達環境学研究科 准教授)

本間 正信 (神戸大学 海事科学研究科 准教授)

要旨

本報では、実習科目「健康・スポーツ科学実習基礎」について、健康・スポーツ科学教育部会としてのコロナ禍対応の方針及び運営の足跡を報告するとともに、それら授業を履修した学生による振り返りアンケートの結果をもとに点検・評価した。

本年度の「健康・スポーツ科学実習基礎」は、前期授業期間の途中で対面授業に切り替えることを考えず、全 11 回の授業はすべて BEEF を用いたオンデマンド型の授業とした。本年度の実習授業は、遠隔として行うこと以外は「基本的には従来のやり方（進め方）を変えない」方針としたものの、遠隔授業としたことにより、シラバスにある授業の到達目標のうちの「運動・スポーツを行う中での社会性の向上」の観点を盛り込むことができなかった。また、遠隔で行う実習授業中の傷害・事故が補償対象となるのか懸念されたが、関係部署の尽力により、授業期間が始まる直前には補償対象となり得ることが確認された。

本年度の「健康・スポーツ科学実習基礎」について、受講した学生の振り返りアンケートの結果を分析したところ、本科目に対する受講学生の満足度は、昨年度の 3.62 から 3.26 へと大幅に落ち込む結果であった。また、記述回答の分析から、平常時の実習授業であれば、様々な身体運動やスポーツを実践する中でコミュニケーションを図る機会が豊富に得られるが、遠隔授業となったために、その機会が無くなっていたことが改めて認識された。

1. はじめに

本年 4 月 1 日の教育研究評議会において、神戸大学としての基本方針が決まり（表 1）、以降、すべての授業を遠隔授業とすることを原則に準備をすることとなった。この後、4 月 7 日には、共通教育グループより、前期の授業開始日が 5 月 7 日になることや少なくとも第 1 クォーターの授業は全て遠隔授業になること、及び、授業時間は 105 分となることなど、関連の情報や連絡は入って来るものの、「健康・スポーツ科学実習基礎」を遠隔での授業にせざるを得ないと割り切るまでにかかなりの時間を費やしてしまい、結局のところ、健康・スポーツ科学教育部会としての運営方針を固め各授業担当教員に連絡できたのは、神戸大学としての基本方針が出されてから約 2 週間が経過した 4 月の半ば過ぎであった。

表1 神戸大学としての基本方針（2020年4月1日付）

2020年度授業開始にあたっての基本方針

- (1) 4月20日から授業開始
- (2) 「最悪の事態」を想定して、全学共通授業科目及び専門科目は、「遠隔授業」が実施できる体制を整備する。
- (3) 4月20日以降の授業は、未だ「最悪の事態」に陥っていないことを前提に、原則として「遠隔授業」とし、「面接授業」は例外的な対応とする。
- (4) この措置は第1クォーターに適用することとし、第2クォーターの対応については、本年5月末を目途に神戸大学新型コロナウイルス対策本部会議が決定する。

元より「健康・スポーツ科学実習基礎」は、6つの学部（文学部、国際人間科学部、経済学部、理学部、工学部及び農学部）と医学部保健学科で必修の科目、海事科学部では選択となっているものの履修する学生が非常に多い科目となっており、様々な身体運動やスポーツを実践する内容の科目である。さらに、「健康・スポーツ科学実習基礎」は、前期授業期間終盤の6～7月における暑熱対策のために、一昨年度まで「健康・スポーツ科学実習基礎1」及び「健康・スポーツ科学実習基礎2」として、それぞれ前期第1クォーター及び第2クォーターに開設されていた2科目を統合して全13回で完結する授業内容に改定した昨年度に創設された科目であり、直前に授業内容を改定したばかりの身体運動やスポーツを実践する実習授業をオンデマンド型の遠隔授業に切り替えることの戸惑いもあった。

本稿では、健康・スポーツ科学実習の基盤の科目として位置づけられる「健康・スポーツ科学実習基礎」について、健康・スポーツ科学教育部会としてのコロナ禍対応の方針及び運営の足跡を報告するとともに、履修学生による振り返りアンケートの結果をもとにそれら授業を点検・評価する。また本報は、単に、実習科目についてのコロナ禍対応の足跡を報告するものではなく、本年度の経験から得られたことを次年度以降の実習に繋げ、健康・スポーツ科学における実習授業のさらなる改善と発展に資するためのものでもある。

2. 授業カリキュラムの対応についての検討

4月1日の教育研究評議会で授業開始にあたっての基本方針が決定された（表1）。健康・スポーツ科学教育部会では、その基本方針を受け部長及び幹事で協議したうえで、前期配当の実習科目「健康・スポーツ科学実習基礎」の実施について、専任教員に対して次のような方針（対応）で授業を実施するとの案を提示した。

- ① 基本的には従来のやり方（進め方）を変えない。つまり、初回授業は「健スポ実習」のガイダンスに充てる。
- ② 第2回目以降の授業は各担当教員がBEEFのみを使って授業を行う。

- ③ 初回ガイダンスのみ、曜限主任¹が Zoom を使って添付のパワーポイント「ガイダンスの資料²」を使用しながら行う。
- ④ 学生には「初回授業だけは Zoom を使う」ことを連絡する必要がある、その方法について共通教育と協議中である。
- ⑤ 対象学生（履修希望者）を予め各コースへ振り分けておき（曜限主任に各コースへの振り分けをお願いする）、共通教育の方で履修登録をしてもらう。つまり、学生は初回ガイダンス時には既に各コースに振り分けられていることになる。
- ⑥ 第2回目以降はすべて完全に各コースでの対応になり、最大の懸念は「非常勤を含め各先生方に BEEF の使い方をマスターしてもらう」ことである。
- ⑦ 授業開始までに、非常勤の先生方に一度は大学に来ていただく必要があるが、その機会を初回のガイダンス時とさせていただくことにする。上記③とも関連するが、別途、講習会として日時を設定するよりは、実質的に第2回目からの授業に間に合えば良いことなので、初回のガイダンスに来ていただけるのであれば、その回を利用させていただく。

この後、緊急事態宣言が発令され、授業開始は5月7日（木）、少なくとも第1クォーター（5月7日～6月25日）の授業は全て遠隔授業、及び、前期の各クォーターは全7週（6.5回）で1回の授業時間は105分となることになった。「健康・スポーツ科学実習基礎」は2019年度より全13回の授業で構成される Semester 科目となっており、これら2020年度前期の学事暦及び授業時間の変更に伴い、1回の授業時間は105分、全11回の授業となるような遠隔の授業に再構成することとなった。なお、上記②～④や⑦にある「初回ガイダンス」については、後述する完全オンデマンド型の遠隔授業として対応することになったために、別途、「初回ガイダンス」についての資料を作成するとともに、すべてのコースの初回授業を健康・スポーツ科学教育部会（部会長及び幹事）が取り仕切ることとした。

2.1 授業形態

「健康・スポーツ科学実習基礎」は、多様なメディアを高度に利用した授業の在り方検討 WG による「神戸大学のコンピュータ環境を考慮した遠隔授業のガイドライン」（4月14日付）に基づき、BEEF を利用したオンデマンド型、つまり学生は1週間の周期の中で

¹ 曜限主任：健康・スポーツ科学実習は1つの曜限枠に複数のコース（クラス）を設けており、各担当教員が授業を進めていく際のコース間の調整役となる専任教員。初回ガイダンスの進行役も担う。

² この時点での「ガイダンス資料」は、例年、専任教員に配付される「ガイダンスの手引き」から必要事項を抜粋して作成された素案であり、後述する全授業担当教員に配付されたものは、この素案を元に修正・更新されたものである。

学習し教員と学生とで意見交換を行う、完全オンデマンド型の授業として実施することとした。また、授業内容としては、「身体運動やスポーツに関わる課題」を提示してその課題に対してのレポートを作成し提出することとし、課題の提示からレポートの受付、提出されたレポートに関する授業担当教員からの講評を公開するまでを BEEF を使用して行うこととした（図 1）。BEEF では、初回の授業を除き、一連の課題の提示から提出レポートの講評の公開に至るまでのサイクルを 10 回分（第 2 回～第 11 回）の授業計画（ひな型）とし、各授業担当者は、身体運動やスポーツの実践に関わる「課題」を考え BEEF に掲載することとした。

	日	月	火	水	木	金	土
授業週		課題の提示		授業日	レポート受付	→	→
翌週	→	レポート締切	講評の公開		レポート拒否		

図 1 1 回分の授業についての 1 周期（授業日が水曜日の場合）

本来、「健康・スポーツ科学実習基礎」は身体運動による実習科目であり、履修学生に示す課題は身体運動やスポーツの実践が含まれていることが基本となるが、例年とは異なり遠隔での授業となることから、次に挙げる点も考慮する必要がある。

- ・ 各コース（クラス）の履修学生は積極的に身体運動を希望する学生ばかりではない。
- ・ 各曜限ごとで各コースの受講学生数はほぼ平均化されている。
- ・ 学生が「課題」を実践するのは BEEF の確認直後かもしれないし、レポート提出期限の直前かもしれない（「1 周期」の 24 時間のいつでも課題に取り組むことができてしまう）。
- ・ 学生が課題を実践する場所は自宅（の 1 室）等のごく狭く限られた空間であるかもしれない。
- ・ 事前に提供するものは「実習ノート」（pdf ファイル）のみであり、これ以外のものを提供する場合（例えば、一流選手がプレーをしている動画など）は各教員が個別に対応することになる。

これらの考慮すべき点を踏まえながら、「課題」についてのより具体的な例を挙げるとすれば、「実習ノートの 7～8 ページを読んで、その日の安静時の心拍数を測定するとともに、最高心拍数や運動強度 50～70% の目標心拍数を算出したうえで〇〇〇〇（ウォーキングやジョギングといった具体的な身体運動の種類名を入れる）を行いなさい」とし、運動前と運動直後の各数値や感想等をレポートさせる、といったものになる。ただ、この例示のま

までは、例年のような各コースの「スポーツ種目」の色合いを前面に出すことができないこともあり、数回程度であれば実践を伴わない「身体運動やスポーツに関する課題」とすることも可能とした。

これらのように、例年は対面で行っていた実習授業を事情があつて遠隔で行うだけのことで、授業中に学生が見えないだけであろうと安易に考えていたが、実習授業を遠隔で行うことには大きな問題点があつた。実習授業中における傷害・事故である。元々、本学の学生は入学時に「学生教育研究災害傷害保険」に加入することになっており、通常の実習授業で受傷した場合はこの保険が適用される。しかし、前述のように、オンデマンド型の遠隔授業で提示された「課題」の運動を実践していた中での傷害・事故は正課中のものであることを証明することが難しく、実質的には不可能に近い。そのため、各実習担当者には身体運動を実践するような課題にする場合は、課題を提示する際に「無理をしない」、「安全に留意して行う」ように指示すること、また、課題そのものを無理なくできる内容のものにすることを各実習担当者に依頼し周知することとした。なお、この問題については、授業期間が始まるまでに「学生教育研究災害傷害保険」を所管する日本国際教育支援協会から「実技等の課題にかかる事故については補償対象として問題ない」との回答を得ており、確認できた時期が前期授業開始直前ではあつたものの、学務課共通教育グループ及び学生支援課の尽力もあつて、この問題を解消したうえで前期授業期間を迎えている。

2.2 授業カリキュラム

「健康・スポーツ科学実習基礎」は、従来から授業シラバスを共通としており、2020年度は表2に示すとおりとする予定であつた。前述のとおり、授業を遠隔で行うこと以外は「基本的には従来のやり方（進め方）を変えない」方針としたことから、結果的に、シラバスにある授業の到達目標のうちの「コミュニケーション力、リーダーシップなどの社会性の向上」については無意味となってしまった。また、授業計画は1回の授業時間が105分となったことにより、全11回で完結するように調整した。

なお、当初の通達は「少なくとも第1クォーターの授業は全て遠隔授業」であり、かつ、本来は身体運動による実習の科目となっていることから、第2クォーター以降では遠隔での授業を通常の対面授業に切り替えることも想定され得たが、「健康・スポーツ科学実習基礎」が前期配当の Semester 科目となっていることから、授業期間の途中で対面に切り替えることを考えず、全11回の授業はすべて BEEF を用いたオンデマンド型の授業とした。

2.3 授業初回のガイダンス

例年の健康・スポーツ科学実習基礎では、初回の授業を「ガイダンス」として、曜限ごとに履修希望学生全員を体育館に集合させ、履修するコースの選択及び履修登録の手続きのほか、履修方法や評価についてなど、健康・スポーツ科学実習を履修するにあたっての

諸注意の説明を行っている。本年度の授業を完全オンデマンド型で実施するとしたことから、初回授業もそれらに準じガイダンスで説明する必要事項をファイルにまとめて資料とした（図2）。

初回の授業では、学生は指定された曜限に BEEF 上の各自が履修するコースへ行き、提示されている資料（「ガイダンス資料」及び「実習ノート」：いずれも pdf ファイル）をダウンロードし、それら資料をよく読んで内容を理解した上で、小テスト形式の「確認チェック」を行えば終了できるように設定にした。

3. 遠隔授業としての「健康・スポーツ科学実習基礎」の振り返り評価

本年度の「健康・スポーツ科学実習基礎」を受講した学生による振り返りアンケートの結果を、昨年度及び 2018 年度と 2017 年度の結果とともに表 3 及び図 3 に示した。本年度の「健康・スポーツ科学実習基礎」について「有益であった」、あるいは、「どちらかといえば有益であった」と回答した学生の割合は合わせて 84.2%であり、昨年度の 92.8%から 8.6 ポイント減少し、一昨年度までの値（2018 年度健康・スポーツ科学実習基礎 1：85.4%；同実習基礎 2：85.8%；2017 年度健康・スポーツ科学実習基礎 1：86.8%；同実習基礎 2：85.7%）をも下回る結果であり、本科目に対する受講学生の満足度は昨年度の 3.62 から 3.26 へと大幅に落ち込む結果となった。また、記述回答では、「できれば対面にしていだきたい」や「実際にスポーツがしたかった」、「みんなで集まって運動したかった」といった、対面での授業を希望する意見が相当数あり、その一方で、課題レポートについて「レポートのみを課す授業形態は負担が大きかった」、あるいは「運動の時間よりもレポートを書いている時間の方が長かった」など、課題の量や課題に対してレポート提出を求める形式そのものに対する意見も散見された。遠隔授業にせざるを得なかったとは言え、BEEF による課題提示からレポート提出、提出されたレポートに関する講評の公開に至るまでの設定が、実習科目で提供する内容として妥当であったのか疑問が残るところである。

「健康・スポーツ科学実習基礎」はスポーツや身体運動を実践する実習科目であり、授業は対面で行うものである。対面ではなく遠隔で授業をせざるを得なくなったことにより、当初に設定していた 3 つの「授業到達目標」のうちの「学生相互のふれあいを通して、コミュニケーション力、リーダーシップなどの社会性の向上を目指す」（表 2 参照）が全く無意味なものとなってしまった。平常時の実習授業であれば、様々な身体運動やスポーツを実践していく中で、学生同士が直接に顔を突き合わせてお互いの気持ちをやり取りしながらコミュニケーションを図る機会が豊富にあるが（安西, 2017; 境ほか, 2014; 笹瀬, 2008）、学生による振り返りアンケートの回答にあった「実際にスポーツがしたかった」や「みんなで集まって運動したかった」は、そのような機会が無かったことに対する意見とみることもできる。健康・スポーツ科学実習として目指すべき授業は、そのような学生の声にも応え得る内容にすることであろう。

表2 2020年度「健康・スポーツ科学実習基礎」の授業シラバス（共通シラバス；一部）

■授業のテーマ
スポーツ活動の意義と役割を理解しよう。
■授業の到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・各自が自らの健康や体力について考えるとともに、その維持増進のための知識と実践方法を学びます。 ・運動・スポーツ各種目の選択実施により、からだを動かすことの楽しさを体感しながら、ルール、マナー、技術の習得を目的とします。 ・運動・スポーツを行う中で、学生相互のふれあいを通して、コミュニケーション力、リーダーシップなどの社会性の向上を目指します。
■授業の概要と計画
<p>主に選択種目による身体運動を実践するとともに、体力測定を行い、その結果に基づいて各自の体力レベルを評価していきます。また実習ノート等を活用しながら、体力の維持増進に必要な知識、実践方法を学習します。</p> <p>【授業計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス、種目/コースの選択 2. 自分の身体を知ろう（体ならしの運動） 3. 自分の身体を知ろう（柔軟性とストレッチ体操） 4. 選択種目による身体運動の実践 5. 選択種目による身体運動の実践 6. 選択種目による身体運動の実践 7. 講義：映像等を用いた身体運動実践の理解（スポーツのルールや戦術、身体運動の巧みさ等の解説） 8. 自分の身体を知ろう（運動による消費カロリー、心拍数と運動強度） 9. 選択種目による身体運動の実践 10. 選択種目による身体運動の実践 11. 選択種目による身体運動の実践 12. 体力テスト（身体組成、握力、立ち幅とび、長座体前屈、上体起こし、反復横とび） 13. 講義：体力テストの結果に基づく自身の現状分析と今後の体力の維持・増進に向けて
■成績評価方法
実習課題の達成度 40%、授業への参加態度と取り組み姿勢 60%で評価します。
■成績評価基準
<p>総授業回数の70%以上出席した者を成績評価の対象とします。 成績評価の対象となった者について、下記の2つの観点から総合的に評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習課題の達成度 健康や体力の維持増進に関する知識、選択した運動種目のルール、運動技術などに関する課題を設定し、記録、レポート、試験等によって達成度を評価します。 2. 授業への参加態度と取り組み姿勢 授業への参加態度（出欠状況や遅刻早退の有無、授業参加時のふさわしくない服装など）、および授業に対する取り組みの姿勢・態度（身体活動への積極的な参加、学生相互のコミュニケーション、リーダーシップなど）を評価します。
■履修上の注意（関連科目情報）
<ol style="list-style-type: none"> 1. 第1回目の授業は第二体育館において実習に関するガイダンスを行います。必ず出席してください。その際に、実習の履修カードを作成しますので、必要事項を記入し顔写真（各自が当日持参すること）を貼付して提出していただきます。 2. 実習時の服装と更衣について <ul style="list-style-type: none"> ・特定のウェア等の指定はありませんが、清潔かつ身体活動のしやすいものに着替えてください。 ・授業に則した屋内用と屋外用の運動用シューズを準備してください。 ・実習時の更衣場所には次の施設があります。屋外更衣室（グラウンド西）、第二体育館更衣室、武道場更衣室 3. 貴重品は必ずパソコン保管庫に入れてください。
■事前・事後学修
<p>事前学修：選択した運動種目のルール、特性を配付資料などで調べておくこと。 事後学修：授業で学修した健康、体力の維持増進のための運動を各自で実践すること。</p>

健康・スポーツ科学実習基礎

健康・スポーツ科学実習基礎は全11回のセメスター科目です(初日から第1Qの7週と第2Qの4週までの授業になります)

授業のテーマと到達目標

- 各自が自らの健康や体力について考えるとともに、その維持増進のための知識と実践方法を学ぶ。
- 運動・スポーツ各種目の選択実施により、からだを動かすことの楽しさを体感しながら、ルール、マナー、技術の習得を目的とする。
- 運動・スポーツを行う中で、学生相互のふれあいを通し、コミュニケーション力、リーダーシップなどの社会性の向上を目指す。

授業の概要

- 選択種目による身体運動を実践するとともに、単に運動・スポーツをするだけでなく、体力測定を行い、それらの結果に基づいて各自の体力レベルを評価する。さらに、実習ノートを活用しながら体力の維持増進に必要な知識、実践方法を学習する。

健康・スポーツ科学実習基礎

健康・スポーツ科学実習基礎は全11回のセメスター科目です(初日から第1Qの7週と第2Qの4週までの授業になります)

授業計画

- ガイダンス、種目/コースの選択
- 自分の身体を知ろう(体ならしの運動)
- 自分の身体を知ろう(柔軟性とストレッチ体操)
- 選択種目による身体運動の実践
- 選択種目による身体運動の実践
- 選択種目による身体運動の実践
- 講義:映像等を用いた身体運動実践の理解(スポーツのルールや戦術、身体運動の巧みさ等の解説)
- 自分の身体を知ろう(運動による消費カロリー、心拍数と運動強度)
- 選択種目による身体運動の実践
- 選択種目による身体運動の実践
- 講義:体力テストの結果に基づく自身の現状分析と今後の体力の維持・増進に向けて

履修方法と注意事項

- 所属学部・学科ごとに指定された曜日・時間にて履修しなければならない。
- カリキュラムは、1年次に全学共通授業科目を中心に鶴甲第1キャンパスで受講できるように編成されている。履修を後回しすると学年進行と共に学部授業、受講場所の関係で履修することが困難になることがあるので注意すること。
- 健康・スポーツ科学実習基礎が不合格になった場合は、2年次以降において再履修しなければならない。健康・スポーツ科学実習基礎を再履修する場合は、学部指定開講枠の曜日・時間の授業を受講しなければならない。
- ガイダンスで配付される受講許可カード及び履修カードに、時間割コード番号や学籍番号、担当教員氏名に誤記があった場合は、単位を取得できないことがある。
- 健康・スポーツ科学実習1および同実習2を履修するには、健康・スポーツ科学実習基礎の単位を修得していることが条件になる。
- 教職単位取得については、実習2単位(健康・スポーツ科学実習基礎および健康・スポーツ科学実習1と同実習2)が必要となる。

成績評価の対象

成績評価の対象に関する申し合わせは、健康・スポーツ科学実習基礎、健康・スポーツ科学実習1・2のいずれにも適用される。

- 実習への出席状況が**総授業回数の70%以上**の者を成績評価の対象とする。(11回×70%=7.7回; 8.0回以上の出席が必要)
 - 遅刻・早退・見学は1/2出席として扱う。
 - 遅刻とは、授業開始後30分を経過するまでに授業に参加した場合をいう。
 - 早退とは、授業開始後の分を経過した後で退席した場合をいう。
 - 見学とは、身体的理由等により授業に直接参加できないが出席が可能な場合をいう。
- 課外活動等による欠席は考慮しない。(公欠、忌引や感染症による欠席を除く)
- 実習への積極的な参加態度がみられない、あるいは、活発な身体活動を行わないような場合には、成績評価の対象としない。
- 疾病あるいは事故等の理由により、在学期間中に実習に参加できそうにない(総授業回数の50%以上の見学が見込まれる)場合は、診断書等によりその理由を書面で提出するものとする。

成績評価の観点

成績評価の対象となった者について、下記の2つの観点から総合的に評価する。

- 実習課題の達成度**
実習課題の達成度は、記録、レポート、試験等によって評価する。
- 授業への参加態度と取り組み姿勢**
担当教員が総合判断して評価する。

水曜2限の開設コース

指定学部: 文学部

履修コード	対象者の学籍番号(下4桁)	担当教員	当初予定していたコース(種目)
U6XX	0001 - 0041	〇〇 # # *	バドミントン
U6YY	0042 - 0071	□□ \$ \$	テニス
U6ZZ	0072 - 0113	◇◇ % %	エアロビクス

学籍番号をもとに履修対象者を振り分けています。

次回以降の授業の進め方

神戸大学LMS BEEF(単に「BEEF」)を用いて授業を行います。

- 課題の確認**
授業日の前日に、提示されている課題を確認、ダウンロードします。課題は、身体運動の実践内容のみ提示される場合や、課題を実践するための詳細な説明が付されている場合もあります。授業当日であれば、必要に応じて、メール等で担当教員に質問しても構いません。ただし、内容によっては即答できない場合があります。
- 課題の実践とレポート作成**
提示された課題が確認できたら、その課題を実践してください。課題が身体運動の実践のみで、そのまますぐでは身体運動の実践が困難な場合は、無理をせず、環境を整えてから課題を実践するようにしてください。ただし、レポートの提出期限は変更できません。実践した後は、課題に関するレポートを作成しましょう。
- 課題レポートの提出(期限)**
作成したレポートはBEEFを使って提出しましょう。レポートの提出が無いと「出席」になりませんので注意してください。レポートの受付は、授業日の翌日から次回授業日の前々日までです。提出されたレポートについてのコメント等を、個人宛てに毎回行うことはありません。なお、提出したレポートは必ず手元に残しておくください。課題レポートの提出が無かった場合は「欠席」、提出が滞った場合は「履修」(出席簿からの修正ができません)となります。

「健康・スポーツ科学実習基礎」のガイダンスはこれで終わりです。

では、**授業日の翌日から次回授業日の前々日までに**BEEF上にある「ガイダンス事項の確認チェック*」を行ってください。

※ これを行わないと「出席」になりませんので注意してください。

次回以降は、各担当教員によるBEEFを活用した授業になります。

質問等は担当教員宛にメールで行ってください。

図2 初回ガイダンスの授業で使用した資料(一部)

表3 2020-2017年度前期科目における授業振り返りアンケートの満足度*と各記述回答数

	回答総数	記述回答数 ()内は割合	満足度*	「対面希望」 回答数	「課題が多い」 回答数
2020年度					
健康・スポーツ科学実習基礎	1269	287 (22.6%)	3.26	32	10
2019年度					
健康・スポーツ科学実習基礎	1368	287 (21.0%)	3.62	---	---
2018年度					
健康・スポーツ科学実習基礎1	1468	205 (14.0%)	3.37	---	---
健康・スポーツ科学実習基礎2	1118	120 (10.7%)	3.40	---	---
2017年度					
健康・スポーツ科学実習基礎1	1320	471 (35.7%)	3.43	---	---
健康・スポーツ科学実習基礎2	943	304 (32.2%)	3.41	---	---

※ 設問6の回答で「有益であった」を4点,「どちらかといえば有益であった」を3点,「どちらとも言えない」を2点,「どちらかといえば有益ではなかった」を1点,「有益ではなかった」を0点として点数化したもの

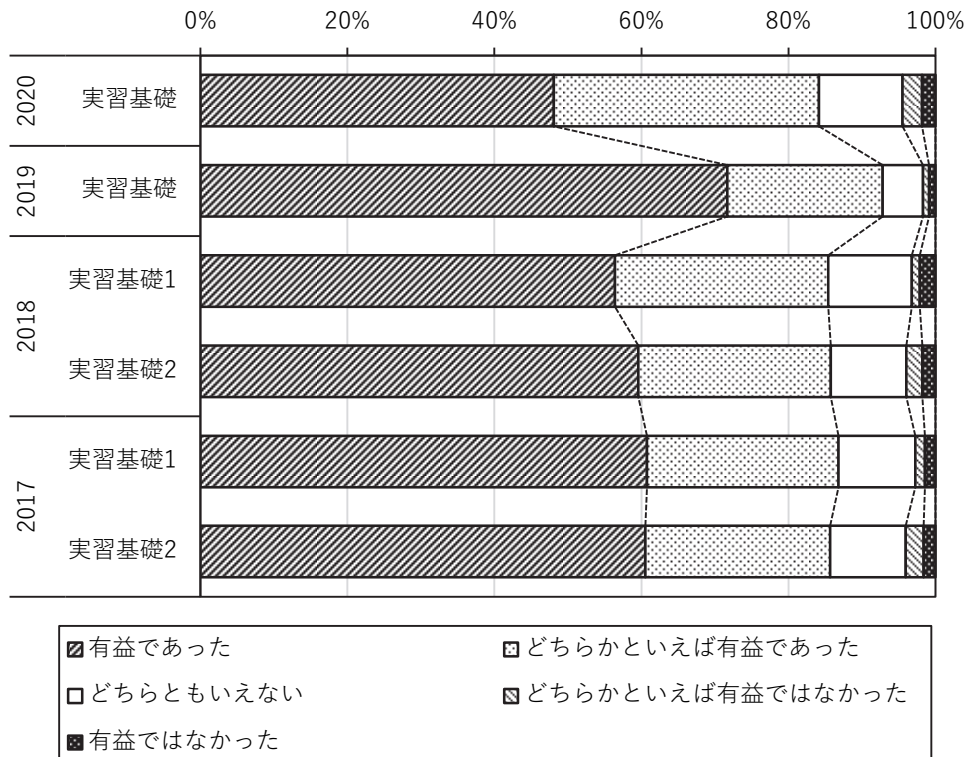


図3 2020-2017年度前期における授業振り返りアンケート「【設問6】総合評価」の結果

4. おわりに

本報では、本来であれば対面で行っていたはずの実習科目「健康・スポーツ科学実習基礎」について、健康・スポーツ科学教育部会としてのコロナ禍対応の方針及び運営の足跡を報告するとともに、それら授業を履修学生による振り返りアンケートの結果をもとに点検・評価した。

「健康・スポーツ科学実習基礎」は、一昨年度まで「健康・スポーツ科学実習基礎1」及び「健康・スポーツ科学実習基礎2」として、前期第1クォーター及び第2クォーターに開設されていた2科目を統合して昨年度から開設された Semester 科目であり、「スポーツ活動の意義と役割を理解する」の授業テーマの下、3つの到達目標を掲げて全13回の実習を行う科目である。コロナ禍の対応でやむを得ない事情はあるものの、3つで1組となっている到達目標のうちの「運動・スポーツを行う中での社会性の向上」を盛り込むことができなかつたことは極めて残念無念である。

健康・スポーツ科学教育部会では、「健康・スポーツ科学実習基礎」についての学生による振り返りアンケートの結果を待つことなく、7月に入って早々に、後期の「健康・スポーツ科学実習1」及び「健康・スポーツ科学実習2」を対面授業として行う方針を固めた。その後、9月までに感染防止対策を練り、体育館や更衣室等の授業実施に関わる各施設の使用方法を点検・再検討するとともに、授業内容を一部変更する等により受講学生数を調整し受け入れ態勢を整えたうえで、ほとんどのコースが対面で授業を行っている。

本年度前期の全学共通授業科目はすべて遠隔で実施されており、それら授業科目にあつては、「健康・スポーツ科学実習基礎」が唯一の実習科目である。他の講義科目や演習科目では得られないことや得難いことが、実習授業として身体運動やスポーツを介することによって比較的容易にできることが多くあり、そのような特色を有することが「健康・スポーツ科学実習」の魅力の1つでもある。一般教養科目としての「健康・スポーツ科学実習」は、これからも学生にとってより有意義な授業カリキュラムを追求し続ける必要がある。

参考文献

安西祐一郎 (2017) 「安西祐一郎の「2045年の学力」(18) いまこそ、体育を必修に」『読売新聞教育ネットワーク 連載・コラム』、

<https://kyoiku.yomiuri.co.jp/rensai/contents/204518.php> (最終アクセス: 2020年12月8日)

境広志・武藤健一郎・稲葉佳奈子・三浦康二・飯田義明・岩嶋孝夫・大北文生・岡田光弘・川上哲・川田尚弘・小谷究・重藤誠市郎・志村広子・鈴木雄太・武田丈太郎・椿原徹也・中村大輔・中村哲也・中山勝廣・伴好彦・福井真司・福士徳文・望月康司・守田誠・渡邊新一郎・渡邊隆嗣・渡邊典子 (2014) 「成蹊大学 成蹊教養カリキュラム コア科目「健康・スポーツの基礎」の授業実践とその効果と検証」『成蹊大学一

般研究報告』第48巻、pp.1-22.

笹瀬雅史（2008）「大学教育におけるレクリエーション・スポーツ授業の実践と評価（2）」

『山形大学教職・教育実践研究』第3号、pp.27-34.

本間正信・秋元忍・前田正登（2019）「神戸大学1年次生の体力・運動能力ー平成24～30

年度の測定結果よりー」『大学教育研究』第27号、pp.57-83.

前田正登・秋元忍・本間正信（2020）「健康・スポーツ科学実習における授業カリキュラム

ー熱中症による事故予防と体カテストの改善を目指してー」『大学教育研究』第28

号、pp.99-113.

本論文の作成は、前田がデータ分析及び草稿を作成し、秋元、関、本間と意見交換を重ねながら行った。